

■「鶴見緑地で春をさがそう！」

日時／平成26年3月22日(土) 場所／鶴見緑地公園 天候／晴れ  
スタッフ／8名

参加者／大人9名 子供6名 合計15名

観察内容／暖かい陽射しの下、いきいき地球館の広報誌にも行事予定が掲載され、多くの参加者が来てくれました。春は季節の移り変わりが早く、1週間前の下見時には枯れ木同然だった木々に花が咲き草も大きく背を伸ばし、花をつけていました。ソメイヨシノの蕾も膨らみ、ウグイスもかなり囀りがうまくなり、大池にはツバメが渡ってきていました。



まずは早春の花であるマンサクの観察。縮れたような花びらが印象的でした。メタセコイアにも雄花が咲いていましたが、こちらは全く目立ちません。大池にはハシビロガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、マガモなどがまだ残る一方、ツバメが水面を飛び回っていました。

一瞬ですが、カワセミの青い背中がキラッと見えました。公園内では、カンヒザクラが満開。ユキヤナギ、白とピンクのアセビ、ハナモモや紅梅・白梅も満開でした。皆でウメの良い香りを楽しみました。落葉をかき分けるとカタツムリ、水溜りにはミジンコがいました。また、枯木の樹皮を剥くと、越冬中のナナホシテントウやオオクチキムシ、ダンゴムシに混ざって、カミキリムシやオオクチキムシの幼虫も転がり出ました。山の広場では、カワズザクラは散りかけていましたが、アズキの花は満開でした。ウメの花には芳香がありますが、アズキにはありません。花はよく似ていますが、参加者に香りの有無を確かめてもらいました。西南アジア館の下では、ヨモギ、ハコベ、オランダミ



ミナグサ、ナズナ、タネツケバナ、ヒメオドリコソウ、ホトケノザ、キュウリグサ、オオイヌノフグリ、フラサバソウなどの多くの草花に混じり、土筆がたくさん生えていました。

植物、昆虫、鳥それぞれに目、耳、鼻で春の息吹を感じることでできた観察会となりました。